

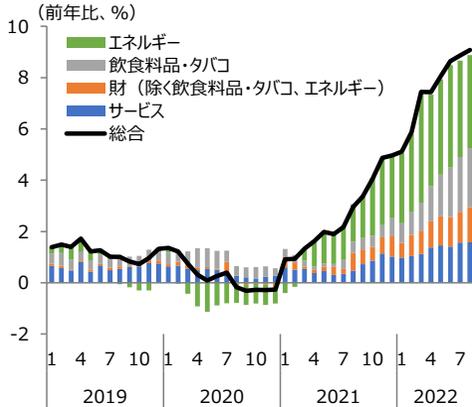
欧州

消費者物価（2022年8月）

記録的な物価上昇継続、コア物価は2カ月連続で4%超の上昇

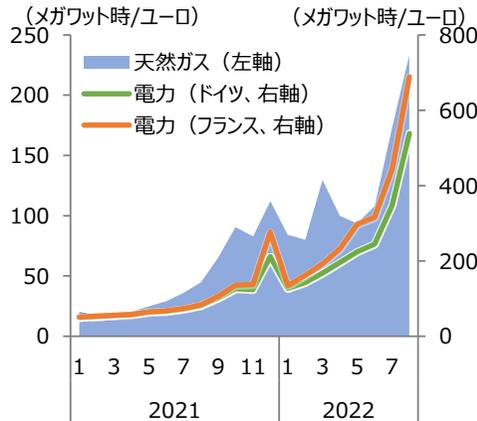
政策・経済センター  
綿谷謙吾  
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏、寄与度）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 天然ガス・電力先物価格



注：日次データの月次平均。直近は22年8月。  
出所：Bloombergより三菱総合研究所作成

3 妥結賃金（ユーロ圏）



出所：ECBより三菱総合研究所作成

4 今後予定のエネルギー関連政策

影響	主な政策
価格 上昇	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガス価格への賦課金制度の導入（独、10月～）（下段のVAT減税などとセットで実施し家計負担を軽減）</li> </ul>
上昇・ 負担 緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー価格高騰を受けた緊急介入策、電力市場の構造改革検討（欧州委員会、具体策は今後提示の見込み）</li> <li>・電力やガスのVAT（付加価値税）減税（独、西など）</li> <li>・650億ユーロの家計支援（独）</li> </ul>

出所：各種報道をもとに三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年8月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+9.1%（図表1）。97年の統計開始以来の過去最高の伸びを再び更新。
- 物価上昇の主因はエネルギーだが、コア物価（エネルギー及び飲食料品タバコを除く）が2カ月連続で前年同月比4%を超える上昇。特に、経済活動再開や賃金上昇を背景にサービス物価が上昇している（図表1）。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、記録的な物価上昇が継続している。
- 先行きの物価は、①ガス供給・熱波など外部環境要因、②賃金要因が物価高止まり要因となるが、③政策要因、④経済減速が物価を押し下げ、年末にかけてピークアウトするとみる。
- ①について、ガス在庫の目標（80%）達成の目途はついたが、突然の供給停止など、ガス価格・供給がロシアの影響を受ける状況に変わりはない。ここに来て、熱波がエネルギー価格・供給に影響している。熱波でライン川の輸送（石炭など）や水力・原子力発電に影響が生じ、電力先物価格は急騰した（図表2）。
- ②賃金は、22年4-6月期は伸びが鈍化も2%を超える上昇となったほか、ドイツなどでは最低賃金の引き上げが今後予定されている（図表3）。サービス物価を中心に、賃金引き上げが物価上昇圧力となるだろう。
- ③政策要因は、各国の家計支援策のほか、現在検討中とされる欧州委員会のエネルギー価格高騰への対策（電力やガスの上限価格設定など）がエネルギー価格の抑制につながる可能性があり、注目だ（図表4）。
- ④について、エネルギー価格の高騰と供給懸念から、欧州経済は冬にかけて減速するとみており、需要要因が弱まることで、物価を押し下げるだろう。
- 景気減速が見込まれるが、ECBはインフレ抑制を重視し、9月8日の理事会では2会合連続で0.5%ポイントの利上げを実施するだろう。